

## 環境モデル都市における平成25年度の取組の評価結果

## 帯広市

人口：16.9万人、世帯数：8.4万世帯（平成25年3月末現在）  
 就業人口8.0万人（平成22年度）、市内GDP：5,376億円（平成19年度）  
 面積：618.94km<sup>2</sup>（うち森林面積258.1km<sup>2</sup>）

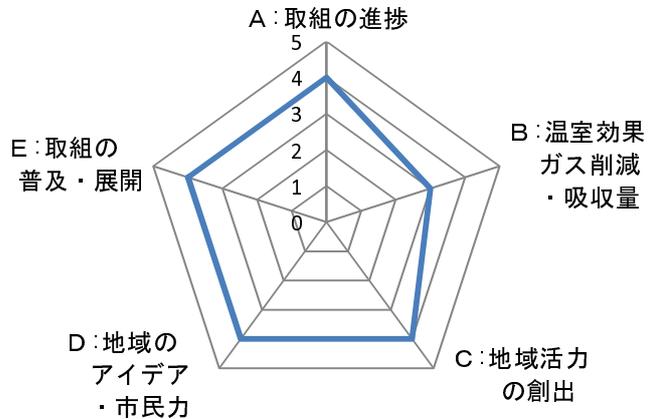
## 平成25年度の取組の総括

平成25年度は、一部の取り組みにおいて遅れが見られるものの、前倒し実施によるCO2排出削減効果の上乗せや新規取り組みの追加などにより概ね順調に進捗している。

温室効果ガスの排出削減量や吸収量は増加傾向にあるものの、電気排出係数の上昇など外部要因によりCO2排出量は増加傾向にある。

地域活力や地域のアイデア・市民力については、住宅用太陽光発電の設置が好調なほか、市民中心に実施する地域美化活動、廃てんぷら油回収、環境モデル地域活動、高齢者無料バス乗車証の交付など、幅広い年齢において環境への取り組みが促進された。

取り組みの普及・展開については、全年齢対象の出前環境教室を中心に、行政視察、JICA研修コース講習、地域内外のイベント出展など、帯広市の取り組みを積極的に発信している。



## A：施策進捗

【参考指標】

4

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	35	70	算定式： ②/① *100	5	130～
b)ほぼ計画通り	1	30	30		4	110～
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	17	0		3	90～109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70～89
計		① 82	② 100	122	1	～69

## (特記事項)

・平成25年度の取り組み82件のうち、追加・前倒し・深掘りを行ったものが35件（約42.7%）、ほぼ計画通りに進捗したものが30件（36.6%）であり、着実に各取り組みが進められている。

・予定より遅れている、または予定量に達していない取り組みについては、取組内容の精査、課題の把握、方向性の再確認、取り組み手法の検討などにより、平成26年度以降の上方修正を図る。

・平成26年度以降に整備予定であった町内会（組合管理）の防犯灯約12,000灯を前倒して実施した。

・年間の日照時間が長い本市の地域特性を活かして太陽光発電システムの導入が進んでいる。平成25年度までに家庭用・企業用合わせて513件、7,128kWの太陽光発電システムが整備され、目標を前倒しで進捗している。

## B：温室効果ガスの削減・吸収量

【参考指標】

3

取組による効果	(t-CO2)	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO2)	(前年度比)
温室効果ガス削減量	60,559	+61.3%	H24暫定値(実排出係数)	152.8	+16.6%
温室効果ガス吸収量	6,463	+34.8%	H24暫定値(排出係数固定)	133.4	+2.3%

## (特記事項)

・温室効果ガスの排出量は、2000年（基準年）比で6.8万t-CO2増加、前年比で21.3万t-CO2増加している。

・毎年変動する排出係数の外部要因を排除するため、基準年の電気排出係数を用いて算出した温室効果ガスの排出量は、2000年（基準年）比で12.5万t-CO2削減、前年比で2.4万t-CO2増加している。

・原子力発電所の長期停止により2011年以降の電気排出係数が全国的に大きく上昇している。

・外部要因により、全体の温室効果ガス排出量は基準年比・前年比共に増加しているが、削減量についてはアクションプランに基づく各種取り組みが確実に効果を現している。

## C : 地域活力の創出

4

### 【参考指標】

帯広の森はぐくむ来館者数	14,771人		
自然観察会等の行事参加者数	969人		
自然観察会等の開催回数	60回		
高齢者無料バス乗車証利用人数	のべ951,311人		
太陽光発電システム導入補助件数	267件		
太陽光発電システム導入貸付件数	52件		
住宅づくり奨励金交付件数	130件		

### (特記事項)

- ・帯広の森(面積406.5ha)の育成管理や利活用の拠点施設である「はぐくむ」には、来館者14,771人、自然観察会等の行事参加者969人が訪れ、森の育成管理のほか環境学習の場としても多くの市民に利用された。
- ・省エネ住宅の建築促進を目的とした「住宅づくり奨励金(地域商品券)」の交付により、帯広市への定住促進、地域経済活性化が図られている。
- ・太陽光発電の設置に対して、補助金の他、自治体としては全国でも珍しい貸付制度(利子補給)を実施しており、再生可能エネルギーの導入・地域経済活性化に大きな効果があった。
- ・高齢者無料バス乗車証の交付により、環境負荷低減、高齢者の生きがい支援、健康増進に効果があった。

## D : 地域のアイデア・市民力

4

### 【参考指標】

家庭用廃食用油回収量	61,437ℓ	資源回収団体	739団体
おひさまソーラーネット入会者数	879人	脱マイカー(ノーカーデー)実績	38,506km
環境家計簿登録者数	136人		
マイバック持参率	82.70%		
省エネルギー自販機設置台数	536台		
清掃ボランティア登録者数	2091人		
資源回収総量	8,561t		

### (特記事項)

- ・1人当たりの家庭用廃食用油の回収量は全国的にもトップクラス。回収された廃食用油は、BDFに再生後、路線バスで使用するなど有効に活用されている。
- ・住宅用太陽光発電設置によるCO2排出削減量を取りまとめ、クレジット化している。売却益は環境基金へ繰り入れ、新たな太陽光発電導入者への補助金として活用されている。
- ・マイバック持参率は82.7%となっており、買い物時のエコバック利用が定着してきている。
- ・アダプトプログラムの手法を取り入れ、市民が中心となって地域の美化活動を行う「クリーンキャンパス・21」、コミュニティの清掃活動を定期的に行う「エコフレンズ」の活動が広く展開された。

## E : 取組の普及・展開

4

### 【参考指標】

出前環境講座開催回数	38回		
出前環境講座参加人数	1,296人		
環境にやさしい活動実践校認定校数	26校		
行政視察受け入れ件数	11件		
JICA研修コース講師派遣	1回		
とがち・市民「環境交流会」参加人数	1,797人		

### (特記事項)

- ・出前環境講座の取り組みにより、小中学校、町内会、企業等幅広い市民層に対して環境関連の啓発活動を実施した。
- ・行政視察の受け入れにより、環境モデル都市おびひろの取り組みを全国へ発信するとともに、自治体間交流、情報交換を図ることができた。
- ・JICA研修コースへの講師派遣を通して、環境モデル都市おびひろの取り組みを世界に発信した。
- ・環境をテーマにした展示や講演会などにより環境活動への理解を深めることを目的とした「とがち・市民『環境交流会』」を開催し、多くの地域住民に向けて取り組みを発信した。